

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、生産用機械が海外メーカーで設備投資の動きがみられることから持ち直しつつあるほか、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで持ち直しの兆しがみられるなど、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
-----	------------	------------	------

個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	回復に向けたテンポが緩やかになっている	
生産活動	一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は減少見込み	6年度は増加見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が拡大	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っているものの、このところ伸び悩みがみられる。百貨店販売は衣料品等が低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は米飯類等が低調となっており、前年を下回っている。ドラッグストア販売は飲食料品等が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売はインテリア等が低調となっており、前年を下回っている。家電大型専門店販売はエアコンが好調となっており、前年を上回っている。乗用車販売は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により、前年を下回っている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつある。このように、個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇等の影響で低価格・節約志向が進んできているように感じられ、プライベートブランド商品へのシフトなど消費者の行動にも変化がみられる。(スーパー)
- マスクを外す機会の増加により化粧品が好調を維持している一方で、節約志向により高価格な衣料品では買い控えがみられる。(百貨店)
- 消費者の低価格志向が進んでおり、弁当など単価の高い商品が売れなくなっている。(コンビニエンスストア)
- 節約志向の高まりの中で、競合店よりも安く販売していることから、集客・売上げの増加につながっている。(ドラッグストア)
- 北東北のエアコン普及率が低いと、新規の購入が多くみられる。(家電量販店)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響がどこまで続くか読めず、受注・販売はしばらく前年を下回る状況が続くと予想している。(自動車販売)
- 国内個人旅行は、好調を維持しており、物価高によるマインドの低下はほとんど感じられない。団体旅行も引き続き回復傾向にあり、100人を超える規模の予約もみられた。(旅行代理店)
- 値上げしても宿泊控えはみられず、高価格なプランも好調。旅行に対しては、たまのぜいたくと考えている旅行者が多く、高価格でもこだわりを持って旅館を選ぶ傾向にある。(観光協会)
- 夜遅い時間も含めてコロナ禍前と同様の状況にまで戻ってきている印象。客足は順調に推移しており、節約のために飲み会を控えるといった様子は感じられない。(飲食)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

電子部品・デバイスは中国経済の減速の影響はみられるものの、自動車向けが堅調なほか、スマートフォン向けなどは持ち直しの兆しがみられる。輸送機械は持ち直しているものの、足下で一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響がみられる。生産用機械は海外の半導体メーカーにおいて設備投資の動きがみられることから、持ち直しつつある。このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 中国の電気自動車(EV)向けは伸び悩んでいるものの、車載部品全体では堅調に推移しており、フル稼働で対応している。(電子部品・デバイス)
- スマートフォン及びパソコン向け需要は、在庫水準の正常化により回復傾向にある。データセンター向けは、今後の需要増加が見込まれる。(電子部品・デバイス)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響から、足下で減産している。(輸送機械)
- 半導体メーカーにおいて、在庫調整の進展に加え人工知能(AI)向けの需要もあって、製造装置への投資は緩やかに持ち直している。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 人手不足から客室稼働率の上限を8割とする状況が続いている。(宿泊)
- 有効求人倍率は悪くない水準にあるものの、賃上げ原資を確保するため新規求人を抑制し、既存従業員の待遇改善を優先する企業が増えてきている。(公的機関)
- 県内の企業の倒産が相次いでおり、事業主都合離職者数が増加している。(公的機関)

■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、情報通信機械等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、非鉄金属等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、農林水産等で減少見込みとなっているものの、小売、金融・保険等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 新製品の生産に係る投資により増加する見込みとなっている。(輸送用機械)
- 食品製造工場の建設や新規出店により増加する見込みとなっている。(小売)

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、木材・木製品等で減益見込みとなっているものの、化学等で黒字転化見込み、生産用機械等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、専門・技術サービス等で減益見込みとなっているものの、運輸・郵便等で黒字転化見込み、小売等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 現状(6年4~6月期)は「下降」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家が前年を下回っているものの、貸家、分譲が前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年度を上回っている」

- 前払金保証請負金額は、国で前年度を下回っているものの、市町村、県などで前年度を上回っており、全体では前年度を上回っている。

■ 消費者物価 「前年を上回っている」

■ 金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」

■ 企業倒産 「件数は前年を上回っており、負債総額は前年を下回っている」

3. 各県の総括判断

	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している		個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	持ち直している	持ち直している		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は持ち直しており、生産活動は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響がみられるものの、全体として持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は持ち直しのテンポが緩やかになっており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	緩やかに持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は持ち直しのテンポが緩やかになっており、生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は、有効求人倍率は高水準を維持しているものの、足踏みの状況にある。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる		個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられ、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。